

年間第30主日

福音朗読 マルコ 10・46-52

2024.10.27 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

前にもお話ししたかもしれませんが、以前にラジオを聞いていましたらアナウンサーの人が自分のした仕事の思い出話をしている、そういうときがありまして、昔、日本全国の百歳の人を訪ね歩くという番組があったと思うんですが、その番組の思い出を話していました。

鹿児島の方のある百歳の女性のところをお尋ねしたときに、その女性はまだ元気で毎日近くの神社、神道の神社にお参りしてお祈りするというのが日課になっていたわけですが、そういうテレビの番組の一つの形式と言いましょか、アナウンサーは「毎日何をお祈りしてるんですか？」と聞いたんです。そのアナウンサーの人は、返って来る答えは元気で長生きできるようにとかそういうような答えが返って来ると予想していたけれども、返って来た答えにとっても驚いて関心したという話なんです。

どんな答えだったかと言えば、「『何か間違っていることがあったら教えてください。直しますから』ってお祈りしてます」というようなことだったそうなんです。長い人生を歩んでそして百歳になってもなお神様の——わたしたちと宗教は違うかもしれませんが——神様の前で自分の間違いを教えてもらうことを願っているというその人の人生への向き合い方というのに大変驚いたということだったわけです。

今日の福音の中では、目が見えないそして物乞いをしていたというバルティマイという人がイエス様に願う、そういう場面が朗読されたわけですが、イエス様のもとにこの人が来て、イエス様から「何をしてほしいのか」と聞かれたときに、「見えるようになりたいのです」——「目が」っていうのは日本語でちょっと補足されていて、「目が」っていうのは原文には出てないです——「見えるようになりたいのです」というふうに願ったということは、わたしたち読者からすれば、イエス様は神様だし、そして目が見えない人が「何をしてほしいのか」と言われたら「見えるようになりたいのです」というふうに願うのは当たり前の流れのように思いますが、よくよく考えると、これは意外な願いであったと文脈から見ることができます。

なぜならば、この人は物乞いであった、って出てくるわけです。で、物乞いの人が道端で叫んで「わたしを憐れんでください」ってふうに叫んでいる場合は、「何をしてほしいのか」というのは、大体の場合は「何かください」ですね。

「何かください、わたしに」って道端で叫で、通りがかりの人が当時貨幣がそんなに流出してたか分かりませんが小銭とかあるいは食べ物とか、そういうものを置いていくということを期待して叫んでいるわけです。ところがこの盲人で物乞いの人はイエス様に「何かください」ということは願わずに「見えるようになりたいのです」というふうに願ったっていうふうなことは、そしてそれが実現した、ならば、イエスの後に従う者になりましたというこの福音の箇所は、わたしたちにも問いかけているように思います。

わたしたちが<sup>ひとごと</sup>他人事として聖書のこの今日の福音を読んだときには、「『見えるようになりたいのです』ってイエス様に願うのは当たり前だな。むしろイエス様に会ったときに『何かちょっとした今日の小銭とかパンをください』って願う、『見えるようになりたい』って願わないで『何かをいつものようにください』って願うのは、せつかくの機会にもつたいない」というふうに思いますが、わたしたちの側は<sup>がわ</sup>どうなんだろうということですね。問われているような気がします。

イエス様がわたしたちを呼ばれたのは、その瞬間瞬間に自分が満足できるような何かをくださいと願い続ける、あるいは周りの人が自分の思い通りに動くようにということではなくて、むしろわたしたちがイエス様の生き方、その姿を見て、そこから影響を受け、そしてもう一人のイエスとしてこの世に恵みをもたらす者に変えられていく、そのためにイエス様は呼ばれたんです。それを願っているかどうかということを問われているような気がします。

このバルティマイは、ストーリーの中でイエス様に対して「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだときに、すぐにイエス様のほうやって来たり、すぐにイエス様のところに取り次いでもらえたりしなかったわけです。最初はみんなに黙らさせられて、でも後で「イエス様があなたを呼んでいる」と言われて、自分のほうからイエス様のほうに移動して行った、近づいて行ったわけです。最初に叫んだときからイエス様に「何をしてほしいのか」と尋ねられる間に、すぐに自分の呼びかけに答えられなくて時間のタイムラグと言いましょうか、があるわけです。その間にもしかしたら「自分が本当に望んでいることは、あるいは望むべきことは何なのか。今日の食べる物をください、なのか。でもせつかくの機会に願うことはもっと違うことなんではないのか。自分の場合だったら、自分自身の人生を変えられる、そのためには見えるようになる、それこそが本当は願うべきことなんじゃないかな」ということに思い当たって、それをイエス様の前に口に出したというふうに想像することもできるような気がします。

わたしたちは今日も一緒にイエス様の前に立っております。わたしたちも何を願うのか、「何かください」なのか、それとも一人ひとりが「肉体の目は見え

ているけれども、でも心、魂の目がもっとよくイエス様の導きを、願いを、そして神様がすでに与えてくださっている多くの恵みに気がつくことができるように見えるようになりたいのです」と願うのか。どちらでしょうかと考えながら、でもわたしたちはせつかく呼ばれたんならば、やはりイエス様の姿そして生き方をもっとよく分かってそこから影響を受けることができるようにと願いたいなと思います。

今日わたしたちを呼んでいらっしゃるイエス様の呼びかけに耳を傾け、そしてその姿を心を通してよりはっきり見て、みあとに従うことができるように、イエス様が呼ばれているその信仰の恵みを改めて噛みしめながら、お互いのために恵みを願い合いたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>